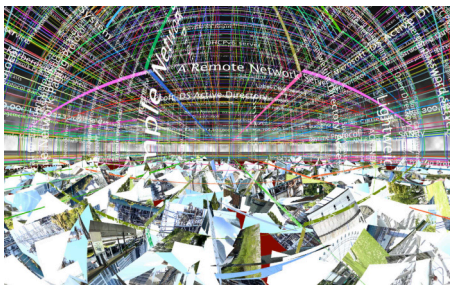
寺井尚行制作による映像を伴う作品

(プラネタリウム、ロボット、劇伴等、他作家とのコラボレーション作品を除く)

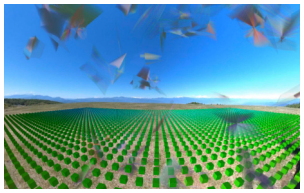


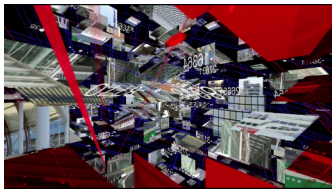
2022年
< Warm Shpher >
for VR and Ambix

温暖化等の地球上で起きた、若しくは、起きるかも知れない事象を扱った360度映像作品で、VRゴーグルや複数のスピーカーを使用したインスタレーションとして展示。映像はProcessing、音声はMaxMSPを使ったプログラミングを主体に制作されている。
Softwears : Processing、Final cut pro、Affinity Photo、MaxMSP、ZOOM、Motion、Edius、Ambisonics Player、Blender、Adobe Premiere Pro、VLC、Cubase、Audacity、etc
Hardwears : Ricoh Theta V、Ricoh Theta S、Zoom H3-VR、HP Reverb G2、MacBookPro、Sony MDR-CD900ST、HP ENVnotebook、Oculus Quest 2、etc

2021年
< Endless cycle of rebirth > for Virtual Reality System

長良川、四日市、勝山、霧ヶ峰、四谷の棚田、渥美半島等、各地で収録した360度映像と、Processingプログラミングでの様々な手法による360度映像作品。音声はMaxMSPにより制作したAmbix形式で制作されている。
Softwears : Processing、Final cut pro、Affinity Photo、MaxMSP、Motion、Edius、Cubase、ZOOM 、 Ambisonics Player、Adobe Premiere Pro、VLC、Audacity、etc
Hardwears : Ricoh Theta V、Ricoh Theta S、Zoom H3-VR、HP Reverb G2、Sony MDR-CD900ST、HP ENVY notebook、MacBook Pro、etc


Endless cycle of rebirth


奔放な粒子達の詩

2020年
< 奔放な粒子達の詩 > for Multi channel audio & Technology

16チャンネル音響、アクチュエータを使った物理音響、映像のための作品。マルチチャンネル音響は、MaxMSPでプログラミングして作成したソースをCubaseで纏め、物理音響部分はArduinoによりソレノイドをコントロールしています。映像は、Processingでプログラミングしたものを、Edisuで編集しています。MID JAPAN SOUND COMP-LEX ART FESTIVALにて上演
Software : PoemPlayerMaster(MaxMSP)、PoemPlayerSlave(MaxMSP)、PoemOfFreeSpiritedPlayer for Video(Processing)
Hardware : Computer x2、Audio interface x2、Arduino、Speaker x16、Projector、Solenoid x8、Dimmer x2、Network hub、etc

2019年
< Warping Definition >
for Soprano saxophone, Computer and Picture

ソプラノ・サクソフォーン奏者が会場内を移動するパフォーマンスを含む複合表現作品です。リアルタイムにて８チャンネル音響の音の定位と映像をマウスで移動する手法を用いており、音声用コンピュータはアクチュエータのコントロールも行います。日本銀行広島支店、Art Setouchi等にて上演
Instrumentation : Soprano Saxophone
Software : Warping Definition for 8ch Audio (MaxMSP)、Warping Definition for Video (Processing)
Hardware : Computer x2、Audio interface、DMX interface、Wireless microphone、Speaker x8、Projector、Solenoid x12、Dimmer x3、Network hub、e

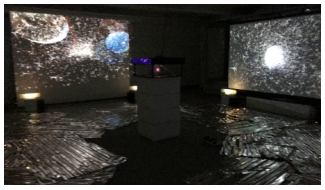
2018年
< ２つの時間(とき)が交差する空間(そら)のスケッチ >
for Soprano saxophone, Piano, Computer and Picture

ソプラノ・サクソフォーン、ピアノ、コンピュータと映像のための作品です。サクソフォーンには若干の特殊奏法が含まれますが、全体的にはオーソドックスな優しいイメージで書かれています。全ての音響はリアルタイムで生成されるため、ライブにおけるプレイヤーの緊張感と達成感を楽しむ作品とも言えます。Gallery Honohoにて上演
Instrumentation : Soprano Saxophone、Piano
Software : Program for cross2times(MaxMSP)、Program for cross2times video (Processing)
Hardware : Computer、Audio & MIDI interface、Foot controler、Microphone x2 (1wireless x1)、Speaker x2、Projector

２つの時間が交差する空間のスケッチ

2018年
< 暖かい空間(そら)に白い 虫が舞う時間(とき)を想う牧歌(うた) >

2017年の日本各地の気象データを可聴化したハイブリッド・アート。那覇から札幌まで8都市の気象データを可聴化し、気温はLEDを使用して温度計のように表示する作品で、4面の映像と、疑似ホログラムを利用して、温暖化をイメージした空間表現となっています。「ナトゥーラ」混沌とした時間(とき)を持つ空間(そら)に音を描くの第四章として、愛知県立芸術大学芸術資料館にて展示
Hardware : Computer x3、Audio interface、Speaker x8、Projector x4、Hologram、Arduino、LED x240、Network hub、Pipe,Screen,etc
Software : MaxMSP,Processing,Arduino


暖かい空間に白い 虫が舞う時間を想う牧歌

賑やかな過去が空間(そら)を凌駕する時間

2017年
< 賑やかな過去が空間(そら)を凌駕する時間(とき) >
for Alto Saxophone, Computer and Picture

アルト・サクソフォーン、コンピュータと映像のための作品で、タイトルでも分かるように、演奏された音声をリアルタイム・プロセッシングして奏者とのコラボレーションを行う作品です。サクソフォーンには特殊奏法が多用されており、更に、奏者が一人でフットコントローラも使用して上演する刺激的な作品です。予め録音した音声は全く使われないため、ライブにおけるプレイヤーの緊張感と達成感が感じられる作品と言えます。
中川文化小劇場、Gallery Intersection 611、日銀広島支店等にて、加藤和也氏や磯貝充希氏のサクソフォーンにより上演されました。
Instrumentation : Alto Saxophone in Eb
Software ; MaxMSP、Processing
Hardware : Computer、Audio & MIDI interface、Foot controler、wireless microphone、Speaker x2 Projector x1

2016年
< 森にて >
for solo Trombone, 6 Trombones, Video, multi channel Audio and Computer

ソロ・トロンボーン、6本のトロンボーン、映像、多チャンネル音響とコンピュータのための作品。豊田市と瀬戸市の境に聳える猿投山にて、アクティブカメラを使用して撮影したFullHD映像と、７名のトロンボーン奏者のための作品で、愛知県立芸術大学創立50周年展示関連イベント「森羅」及び熱田文化小劇場ホールにて上演された。
Instrumentation : solo Trombone, 6 Trombones
Software : MaxMSP
Hardware : Computer x2、Microphone x7、Speaker x8、Projector x1、etc.

2012年
< Kaisho Cube > for Video

瀬戸市にある里山、「海上の森」とキューブをコラボレーションさせたFullHD映像作品。海上の森で収録した実写ソースをProcessingにより編集、音声はMaxMSP等により加工して、Premiereにてまとめた作品。Art Setouchi、海上の森センター等にて上映
Hardware : Projector x1、Screen for rear projection x1、etc.

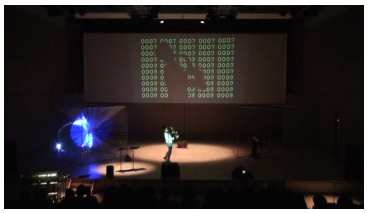
2004年
Seven short pieces < pebble > for computer

６つの小品からなるインタラクティブ作品で、ネットワーク上での使用を前提として制作された。なお、大学の情報学部の教材としても使用された。
Hardware : Computer x1

1980年
< Sweet Sky >
for 4 amplifiered Cellos, performance & pictures

中電ホールで上演された作品で、四日市で撮影したスライドを、2台の投影機を使用してステージ後方に投影、ステージ上にはパフォーマー、会場の四隅では４名のチェリストが演奏する作品。
Performer : x1
Instrumentation : Violon Cello x4
Hardware : Slide projector x2、Speaker x4、Microphone x7、Audioocessor

◆ これら以外の作品
2014年 < Decrements > for alto saxophone and technology
2004年 < Stream > for Video


Decrements